

講義科目名称： プロジェクト実践演習／全科 （共通教養科 授業コード： 2112413 2115243 2131301
2135411 2151266 2155285
目）

英文科目名称： Project Practice Exercise

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年・2年	2単位	選択必修
担当教員			
小滝 正孝			
[科目ナンバリングコード] SOC-0-L-4	[種別] 演習	[科コース(専攻)] 全学科	[授業時間]
添付ファイル			

関連するDPと学修成果	[関連するDP] DP1 [知識・理解] [態度・志向] [技能・表現] [思考・判断] ○地域課題解決力 △チームワーク・リーダーシップ △生涯学習力と自己管理能力 ◎論理的思考力・問題解決力
アクティブラーニング	調査学習、フィールドワーク、ディスカッション、PBL
ICTの活用	Googleクラスルームを活用する、インターネットを活用した調査学習
地域の学修	該当あり
授業の概要とキーワード	本演習では、和歌山の魅力を広く伝えることを課題に、和歌山の魅力を掘り起こし、付加価値を加えて地域活性に繋げる地域ブランディングを体験的に学ぶ。2024年度は、紀の川市にある粉河寺の門前にある旅館「三笠館」をリノベーションしたカフェ・ゲストハウス・サウナの複合施設を核として実践的な取組を行う。「粉河まちづくりプロジェクト」をテーマに、フィールドワーク、ディスカッションなどを通して、課題発見力・解決力の向上を目指す。【課題解決、地域ブランド開発、コミュニケーション】
実務経験と授業内容	行政で施策の企画立案・事業実施の経験を有する教員が授業を担当。紀の川市役所職員及び粉河まちづくりプロジェクトの賛同メンバーが外部講師として指導助言する。課題解決に実際に取り組むことで学修を深める。
学修成果の領域 学生の到達目標◎	〈思考・判断〉 物事を筋道立てて考え、地域の課題を解決することができる。
学修成果の領域 学生の到達目標○	〈態度・志向〉 課題を発見し、創造力を駆使して、より良い方向性を導き出すことができる。
学修成果の領域 学生の到達目標△	〈態度・志向〉 他者と協力して、課題解決に取り組もうとする態度が身についている。
学修成果の領域 学生の到達目標△	〈態度・志向〉 様々な情報を収集、分析し、課題解決に当たろうとする姿勢が身についている。
授業のテーマ及び内容	01 オリエンテーション・ミッション提示・フィールドワーク 演習の進め方について説明する。紀の川市や粉河とんまか通りの状況について説明する。「粉河まちづくりプロジェクト」というミッションについて説明する。粉河の街のフィールドワーク。6月22日(土)8時間 本学教員、外部講師 02 フィールドワーク・企画会議(1) 粉河の探索及び関係者へのインタビュー等を行い、課題や魅力を探る。フィールドワークで得られた情報を整理・分析し、粉河の課題解決に繋がる事業を企画する。7月6日(土)8時間 本学教員、外部講師 03 フィールドワーク・企画会議(2) 粉河の探索及び関係者へのインタビュー等を行い、課題や魅力を探る。フィールドワークで得られた情報を整理・分析し、粉河の課題解決に繋がる事業を企画する。9月21日(土)8時間 本学教員、外部講師 04 企画会議(3) 粉河の課題解決に繋がる事業企画を関係者と協議し、成果発表会に向けた準備を行う。10月5日(土)8時間 本学教員、外部講師 05 成果発表 粉河三笠館において、成果発表会を開催する。11月9日(土)8時間 本学教員、外部講師
【期末試験】評価の割合と観点	
【課題】評価の割合と観点	〈思考・判断〉50% 課題解決のため、論理的に考え解決策を提案することができるか。 〈態度・志向〉30% 課題を見出し、柔軟な発想で解決のための方策を提案することができるか。
【平常点】評価の割合と観点	〈態度・志向〉10% 他者と協力して課題解決の実現に向けて取り組むことができるか。 〈態度・志向〉10% 様々な情報を収集・分析し、より良い方策を提案できているか。
【その他】評価の割合と観点	
教科書	適宜資料を配付する。

参考書	岩崎邦彦著 「地域引力を生み出す観光ブランドの教科書」 日本経済新聞出版社 佐々木一成著 「観光振興と魅力あるまちづくり 地域ツーリズムの展望」 学芸出版社
課題・試験等のフィードバック	提出された課題に対して、参考となる見解等についてコメントし、紹介する。
予習・復習の内容と時間	課題解決のための情報収集を行い、アイデアをまとめておくこと。240分。
免許・資格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、情報処理士、上級情報処理士
受講要件等	特になし
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。
備考	最終の成果発表日は、関係者との調整で日程を変更する場合があります。フィールドワークをはじめ学外で演習を行うこともあります。メモ用紙を用意すること。